

平和憲法・9条をまもる 岩手の会 ニュース No.225

2024. 7. 1

発行：平和憲法・9条をまもる
岩手の会 実務者会議

連絡先 県生協連・県消団連

TEL 019-684-2225

FAX 019-684-2227

すすめよう！「憲法改悪を許さない全国署名」 岩手の署名 31,857筆（～6月末。うち郵送352通・1,369筆）

紙芝居「とばないひこうじょう」の鑑賞会を開催しました —平泉・9条の会—



平泉・9条の会（那須正吉代表）では、5月15日に紙芝居「とばないひこうじょう」の鑑賞会を開催しました。

この紙芝居は、絵本「とばないひこうじょう」紙芝居にしたもので、作者の故森田純さんが、戦時中に小山飛行場（奥州市胆沢）を秘密裏に建設するため学徒動員された辛い思い出を描いたものです。

当日は朗読ボランティア小野寺澄子さんが読み手を務め、21名が鑑賞しました。紙芝居では、昭和20年春に陸軍が秘密裏に飛行場を作るため、県内各地から約2,000人の生徒が動員され、生徒は粗末な食事、風呂は月に一度しか入れないという過酷な環境下で、連日

手作業で地面を削り、土を運び、整地し滑走路を作る作業に従事した凄惨な様子が克明に描かれていました。

参加者からは、「毎日のように世界各地の戦争・紛争の様子が流れているが、この紙芝居をもっと多くの方々に見てもらう機会を作り、森田さんの思いを伝えていった方がよいのではないか」等の感想が寄せられました。

（島原 弘征）

「戦争する国づくりをみんなで阻止しよう」—5/26九条の会東北交流会開催—

2010年に仙台で開催された「第1回九条の会東北交流会」は、今回3巡目となり、初頭の仙台で開催されました。東北6県の九条の会が13回も持続的に交流を重ねてきたことは全国的にもなく、特記される活動です。会場参加者は52名（県外16名、県内36名）、ZOOMを併用し、各地で設定されたサテライト（県外18カ所）を含め視聴者数は96名でした。

戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会共同代表の菱山南帆子さんが講演。情勢と政治の現状、より共感を広めていくために私たちが理解しておかなければならないこと、自公政権・そして維新と対決して行くために私たちができること、一人一人が自分のマニフェストを、など、私たちに勇気と希望をもたらす内容でした。そして、「改憲勢力に囲まれながら一文字も憲法を変えさせなかったのは、私たち一人ひとりの運動の力」と述べ、運動の継続が重要だと訴えました。



「九条の会運動の『いま』と『これから』と題するパネルディスカッションの企画は、交流会では初めての試みで、「街宣では、ウクライナやガザの報道をみて中高生が応援や飛び入り参加があり変化を感じている」「運動参加のハードルを下げようと映画会を開催したり、高校生平和大使とも連携している」などの発言がありました。

来年は、岩手で開催されます。詳細が決まり次第お知らせしていきますので、ぜひご参加ください。

お知らせ 学習に活用ください！ 九条の会新ブックレット「改憲、軍拡と憲法審査会」

2/22に、九条の会／戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会共催で、緊急院内集会「憲法審査会は、今！」が開催されました。

◇見逃し配信はこちら⇒ <https://www.youtube.com/watch?v=nM4Oe3Ra8Ms>



この内容が掲載されているブックレット（2024年3月29日発行 A5判・70頁 1冊500円（送料別））を、**ご希望の方に1冊400円（送料込）でお譲りしています。ご注文は岩手県生協連まで。**



ロシアに国際法順守要求 ウクライナ平和サミット閉幕

全当事者関与の協議模索も確認（コラム子の最大関心事）

巷明けても暮れても、ロシアのウクライナ侵略、イスラエルとハマスの戦争が継続される下、「ウクライナ平和サミット」が先に閉幕しました。最も時宜を得た、ジャーナリズム性を保持する報道に出会いましたので、みんなで一読してみましょ。その報道は次のとおりです。

【ベルリン＝吉本博美（'24・6・18付 しんぶん赤旗）】スイス中部ビュルゲンシュトックで開かれた「ウクライナ平和サミット」は16日、2日間の日程を終えて閉幕しました。欧米の西側諸国を中心に92カ国・8機関が出席し、ロシアの全面侵略を受けるウクライナの和平案を協議しました。ロシアに国際法の順守を求める共同声明を採択しました。

サミットは、ウクライナのゼレンスキー大統領が2022年11月に発表した「10項目の和平案」のうち3項目を協議し、共同声明に盛り込みました。声明は序文で、ロシアのウクライナへの全面侵略が「大規模な人道危機と破壊をもたらし、世界規模のリスクと危機もつくり続けている」と批判。ロシア軍の無条件・即時完全撤退を求める一連の国際決議に触れ、ロシアに対し国際法と国連憲章の順守を迫っています。

声明は、ウクライナ南部ザポロジエ原発からのロシア軍撤退と、ウクライナ占領地域で拉致した子どもと全ての戦争捕虜の解放を要求。ロシア軍の黒海封鎖で食糧価格が世界的に高騰したことから「食糧安全保障を武器としないこと」も求めました。

和平達成にはすべての当事者の関与と対話が不可欠だ」と記し、ロシアが関与する協議の在り方を模索するとしています。サミットを主催したスイスのアムヘルト大統領は「どのようにロシアを平和プロセスに参加させるかという重大な課題が残った」と発言。「（ウクライナとロシアの）双方の当事者が関与する必要がある」と改めて強調しました。

サミットにはロシアは招待されず、中国は欠席。アジア、アフリカ、中南米の主要国の首脳が出席を見送りました。また、インドや南アフリカなど主要新興国が署名を拒んだため、共同声明を支持したのは83カ国・機関にとどまりました。

「ゼレンスキー氏 中国に呼びかけ『和平協議関与を』…【ビュルゲンシュトック（スイス）＝時事】（'24・6・18付 しんぶん赤旗）」「プーチン政権 侵攻継続示す 圧力回避の予防戦か…（時事）（'24・6・18付 しんぶん赤旗）」コラム子はゼレンスキー大統領の陣営対立を煽る立場では解決は難しく、アセアンの「アセアン地域フォーラム」の方式（アセアン10カ国＋16カ国（米、中、ロなど））による「包括的な会合」でなければならないと思っています。日本国憲法下の岸田政権は、主導的な役割を果たせると思います。（T）

「7月の岩手の会街宣行動」

9日(火)12:30～13:00

「盛岡市大通・野村証券前」

ご都合のつく方は、ぜひご参加下さい。

